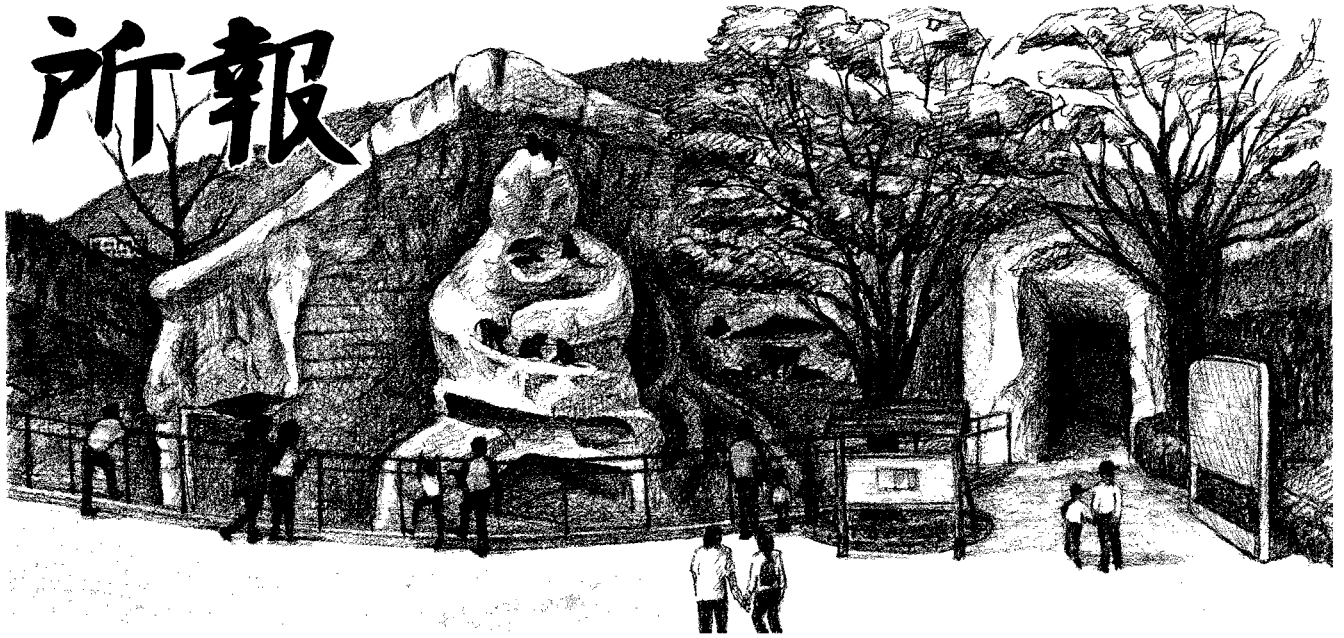


所報



平成14年2月



子どものころをのぞいてみれば

神戸芸術工科大学助教授 香山リカ

「近ごろの子どもや若者は」という言い方がある。そう言われた時点で、あとに続くのは否定的なフレーズなのだ、となんとなくわかる。「近ごろの若者は礼儀を知らない」「近ごろの子どもは本を読まない」などなど。しかし、そういうことを口にする大人をよく観察してみると、礼儀を知らなかったり本を読まなかったりするのはその人自身であることも多い。要は、社会の中の弱い存在である若者や子どもを鏡として、自分自身の欠点や弱さを写し出して見ているのであろう。

また、「私と子どもは何でも話せる仲良し親子です」と言う人もけっこう多い。「親子断絶なんてウチには無関係」と自信たっぷりの親の横で苦笑いを浮かべている子どもにあとから聞いてみると、どうやら「何でも話している」のは親の側だけ。職場のグチ、夫婦の葛藤から恋愛相談(!)まで、親が子どもをカウンセラーがわりにして何でも話している。子どもの方は「そんな話まで聞きたくない」と思いながらも、親が求めている回答をやさしく口にしてあげるのだ。「そうね、ママ。私もあんなパパなんていないよ」

親は「子どもの意見も尊重した」と満足なのだが、もちろん子どものストレスは増えるばかり。

今の時代、大人だって生きるのはとても大変。つい他者を批判することで自分を守りたくなったり、だれかに自分の胸の内をぶちまけてみたくなったりするのは、よくわかる。でも、よりによってその対象に世間の若い人たちや自分の子どもを選ばなくたって…。惨い幼児虐待が連日のように報道されているが、大人に八つ当たりされたりカウンセラーがわりにされたりしている子どもだって、立派な大人のエゴの犠牲者だ。

「まったく今どきの若者はけしからん」「ウチはコミュニケーション満点の仲良し親子」そう思っている大人たちは、ちょっとだけ考えてみてほしい。私、自分の内面を若者や子どもを鏡にして写し出してはいないかな？若者や子どもの本当に正しい姿やこころの声を、ちゃんと見つめることができているかな？と。知らない間に彼らの方が大人に気を使い、ストレスをため込む結果になっているのかもしれないのだ。どこから、子どもたちのため息が聞こえてきませんか？「やれやれ、今どきの大人にも困ったものだ」

もくじ

- 巻頭言…………… P. 1
- 教育研究の紹介…………… P. 2～4
- 来年度の研修講座・教育用語解説…………… P. 5

- 教育実践のアイデア…………… P. 6
- 「総合的な学習の時間」の評価について… P. 7
- 教育センターひろば…………… P. 8

学習指導

子どもの学びを育む授業づくり をめざして（Ⅱ）

—授業中における教師の判断に視点を置いた
授業研究を通して—

教育センター主任指導主事 尾形 慎治
主任指導主事 三原 裕隆
指導主事 藤村 和彦

前年度、授業中の子どもの姿から子どもの内面で何が起きているのかを探り、子どもは、教師や友だち、教材、教室環境や時間など様々な要素と影響しあいながら、問いと納得を繰り返し、自分なりの文脈（思考の流れ）を形成しながら学んでいることを見取ることができました。本年度は、このような子どもの学びを育む授業づくりを進めていくうえで、教師はどのような力を付けていけばよいかを、授業中の教師の内面に焦点を当て、探りました。

1 授業づくりに必要な教師の力

教師は、授業中の様々な場面で、子どもの学習状況とその時間で指導すべき学習内容とを考え合わせながら、次の手だてを即座に判断して学習を展開させていこうとしています。その判断の際に働く子どもや教材などに対する教師のものの見方や考え方が、授業の行方を大きく左右するものであり、教師の授業をつくるうえでの重要な力であると考えました。

2 授業を振り返ること

しかし、その判断は実に瞬間的で無意識的に為されていることが多く、その都度、自分自身の判断を一つ一つ振り返ってそれを促す見方や考え方を意識する余裕はないのが通常です。したがって、教師の判断やそれを促す見方や考え方について意識を向ける、振り返る場の工夫が必要と考えました。

そこで、授業中に教師が判断を迫られた場面に焦点を当て、その場面を振り返る授業研究を行いました。それは、教師（授業者）自身がそこでの自分自身を振り返るとともに、観察者のとらえた情報も交えて、そこで為された判断について子どもの文脈と教師の文脈等の関連から吟味すること、授業の中で教師が瞬時に判断する力に結び付くのではないかと考えたからです。

3 振り返りを重視した授業研究の進め方

授業実践の後、次のように3段階の振り返りの場を設定し、授業研究を進めました。

振り返りⅠ（授業者1人による振り返り）

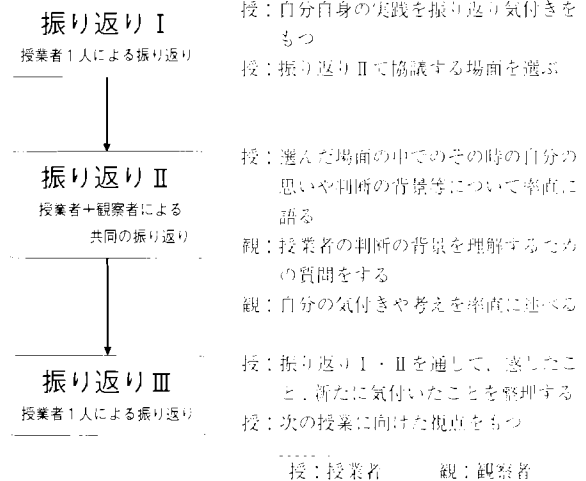
授業者が自分の実施した授業の記録（ビデオ記録・音声録音、あるいはそれらを文字記録に起こしたもの）をもとに、自分の内面を振り返ります。そして、自分なりに課題に気付き、判断を迫られた場面としてとりあげたい場面を決めます。

振り返りⅡ（授業者+観察者による共同の振り返り）

授業の記録と授業者自身の振り返りをもとに、授業者がとりあげた場面について授業者と観察者がそれぞれの立場に立ってその場面を共同で振り返ります。そして、自分自身の判断や行動の意味を納得したり自分では意識していなかった意味を見出したりして、新たな展開の方向性に気がきます。

振り返りⅢ（授業者1人による振り返り）

振り返りⅠ・Ⅱを振り返り、気付いたことや感じたことなどを自分自身で整理します。そして、次の授業に向けた思いや願いをもてるようにします。



4 振り返りを通して授業者が得るもの

以上の3段階の振り返りの過程を通して、授業者はまず、判断する際の状況を明確に顕在化しながらそこで働いていた自分自身の見方や考え方を意識しそれに気付いていきました。そして、様々な見方や考え方を働かせながら授業を展開している自分に気付くとともに、新たな見方や考え方をしていこうとする姿を見取ることができました。さらに、授業者はこのように自分自身の見方や考え方について意識することを通して、次のような今後の授業づくりに向けた意識を身に付けていくことがうかがえました。

- 授業前の準備では、自分の文脈の幅を広げることに努めていく。
- 授業中では、幅広い自分の文脈をもって学習を展開していく。
- 授業後は、授業を振り返り新しい見方や考え方を得る。さらに自分の文脈を広げていく。

これらを本研究では、授業づくりに向けた授業者の「構え」ととらえました。このような「構え」を身に付けていくことが適切な判断を促す見方や考え方を生み出す源となるものといえるのではないのでしょうか。

※ 詳細は、教育センター研究紀要第21号をご覧ください。

学級経営

学級経営の充実に関する研究

教育センター主任指導主事 砂 原 文 男
主任指導主事 名和原 恵 理
前教育センター指導主事 首 藤 龍 磨

「学級がうまく機能する」とは、どのような状態を言うのでしょうか。学級をうまく機能させるために、担任はどのようなかかわりを行っているのでしょうか。

本研究では、「学級がうまく機能している状態」を「学級が子どもたち一人一人にとって社会性を発達させ個性の伸長を図ることができる状態にあること」ととらえ、学級をうまく機能させる担任のかかわりとはどのようなかかわりか、その担任の実践の基盤にあって作用しているものは何かを広島市立小・中学校の三つの学級の事例を通して探ってみました。その結果、次の七つの要素が浮かび上がってきました。

学級をうまく機能させているかかわり

- 感情の共有
- 論理的な指導と情緒的な指導のバランス
- 子どもに委ねることと教師が主導で行うことの明確化
- 豊かな人的資源づくり
- 感動体験の構築

基盤にあって作用しているもの

- 子どもとの「心理的な距離」
- 感性
 - ・ 子どものよさに気付く感性
 - ・ 日常生活の中から感動を感受する感性

ここでは、上記の七つの要素のうち、論理的な指導と情緒的な指導のバランスと子どもとの「心理的な距離」について述べます。

論理的な指導と情緒的な指導のバランス

学級をうまく機能させる要素として論理的な指導と情緒的な指導の使い分けがあげられます。教師は状況に応じて子どもの情緒面に働きかけたり論理面に働きかけたりしています。

今回の事例の中に、学級全体に荒れが広がり、どうしようもない状況を担任として感じた時、過去の自身の体験の中で心打たれた出来事を切々と子どもに語り聞かせたことによって、学級の状況が好転した事例があります。この事例で見られる指導は、子どもの感性に働きかける情緒的な指導です。情緒的

な指導により学級が落ち着き、学級の機能が回復した例です。

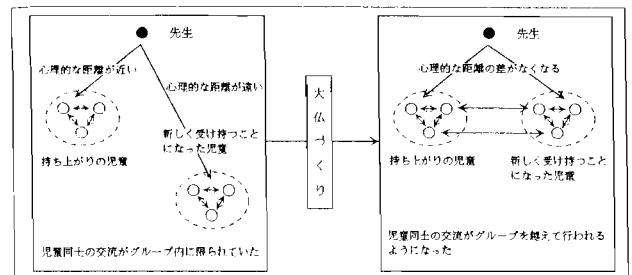
一方、論理的な指導として学級のルール of 徹底を行い、子どもが安心して生活できる空間を学級内に創り出し、結果として子どもの情緒が安定しているという例もあります。

論理的な指導と情緒的な指導の使い分けが学級の機能に大きく関係していることが分かりました。

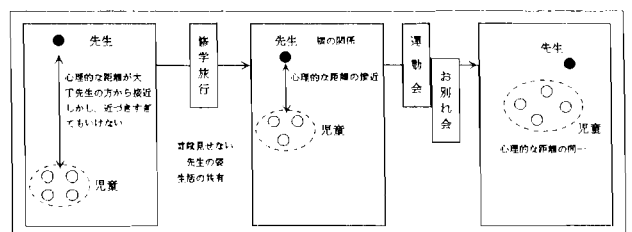
子どもとの「心理的な距離」

「心理的な距離」とは、教師と子どもとが互いにどこまで気心が分かり合っているかといった人間関係の深まりの度合いとして本研究ではとらえました。この、教師と子どもとの「心理的な距離」が、学級のまとまりや子どもへの担任のかかわり方に大きな影響を与えていることが分かります。

次の図は、ある学級の例です。4月から5月にかけて、この学級では児童間に担任との「心理的な距離」のばらつきがあり、担任は学級がまとまっていなと感じていました。ところが、苦勞を伴う体験の共有の場として「大仏づくり」の作業に取り組みせたところ、「心理的な距離」のばらつきがなくなり、それとともに学級にまとまりが見られるようになりました。



別の学級では、4月初旬、担任と児童との「心理的な距離」が大きい状態でした。担任が、児童との「心理的な距離」の接近を感じたのは、運動会における組み体操の練習というある意味では苦しみを伴う体験の共有や、修学旅行における生活の共有、お別れ会における感情の共有でした。こうした互いの思いに触れたり、互いの頑張りを讃え合ったりする感情の共有が児童と児童、児童と担任との「心理的な距離」を縮め、学級をうまく機能させていくことにつながることがうかがえます。



※ 詳細は、教育センター研究紀要第21号をご覧ください。

教育研究の紹介

— 教育センターでは、次のような教育課題の解明に取り組んでいます —

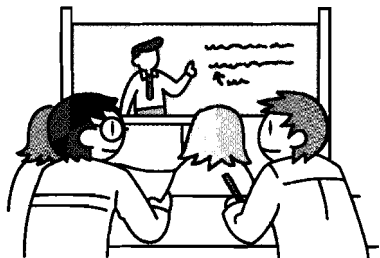
少人数授業の効果的な指導法は？

少人数授業に関する研究

今、少人数による授業が、クローズアップされています。子どもに確実に学力を身に付けさせるためには、どのような指導形態や指導方法が効果的なのでしょうか。

少人数による授業を工夫する中で子どもがどのように学習しているのかを探ります。

(担当：尾形・森下・藤村)



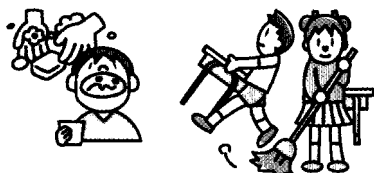
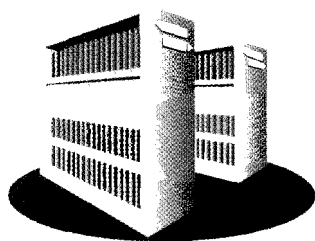
「総合的な学習の時間」の評価は？

「総合的な学習の時間」における児童生徒の学習状況の評価に関する研究

「総合的な学習の時間」の評価に当たっては、各学校で具体的な目標、内容を定めて評価を行うことが求められています。

小・中学校の実践例に学びながら、評価の観点の定め方や評価の方法の考え方について探ります。

(担当：松浦・井坂・堂道)



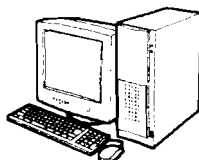
子どもの学習や生活と集団規模との関係は？

子どもの学習や集団生活における基本的な態度の定着と集団の規模との関係に関する調査研究

小学校1年生の時期は、義務教育のスタートとして、学習・生活の両面において大変重要な時期です。各都道府県において、教職員配置の弾力的運用により集団を小さくする取り組みが行われていますが、集団の規模と学習や集団生活における基本的な態度の定着とはどのような関係があるのでしょうか。

1年生の学級担任への意識調査を通して、その関係を探ります。

(担当：砂原・名和原・山領)



インターネットを活用した効果的な学習とは？

インターネットの活用に関する研究

新教育課程では、情報通信ネットワークなどに慣れ親しみ、積極的に活用していくような学習が求められています。

教育用コンテンツを充実し、インターネットを活用して交流学习をすることによりその方法を実践的に探ります。

(担当：住吉・水ノ上)

学校の自己評価はどうすればいい？

教育課程経営に視点を当てた学校評価に関する研究

特色ある学校づくりに向けて、学校における自己評価の充実が求められています。何を対象に、それをどのような観点で評価することが特色ある学校づくりにつながっていくのでしょうか。

評価方法や評価体制について、「総合的な学習の時間」を例に具体化していきます。

(担当：吉竹・永岡)



はたして子どもたちは変わったのか？

子どもたちの意識を通して教育改革の道標を探る調査研究

21世紀の新しい教育の実現を目指して、現在教育改革が進められています。この改革によって子どもたちはどう変わっていくのでしょうか。

過去の子どもの意識と現在の子どもの意識を比較することによって、その違いを探っていきます。すべての指定都市が共同で研究していますが、広島市は、子どもが学級にどのような思いを抱いているかを中心に探っています。

(担当：前田・藤村)

来年度以降、教育センターにおける研修は大きく変わります

子どもの実態を踏まえ市民のニーズに応える教育の実現や
教員としての自己実現のための資質能力の向上を支援します。

【研修のねらい】

- ・教職経験に応じた研修を通して、教員に求められる資質能力の向上を！
- ・社会体験研修等を通して、社会的視野の一層の拡大を！
- ・より専門的な研修を通して、得意分野をもち個性豊かな教員となるための資質能力の向上を！

ライフ・サイクルの節目に研修して、

実践力アップ

- ・初任者研修
- ・教職経験2年次教員研修
- ・教職経験6年次教員研修
- ・教職経験11年次教員研修

★★★2年次研修では、全員が企業等における業務を体験します。6年次・11年次研修では、様々な分野で活躍されている方の生き方に触れたり、実践史をつくったりします。また、授業力アップのための授業研究を行います。★★★

★★★下線を引いた研修は、各研修の対象者全員が受けることとなります。★★★

・職務遂行上の課題について研修して、

経営力アップ

- ・教務主任研修（新任・経験）
- ・校内研修推進教員研修講座
- ・養護教員研修講座
- ・校長・園長研修（新任・経験3年次）
- ・教頭・副園長研修（新任・経験3年次）
- ・学校経営課題講座
- ・校務運営課題講座

当面する教育課題や自己の実践課題について研修して、**授業力アップ**

- ・幼稚園教育課題講座（子育て支援）
- ・障害児教育課題講座（ADHDの理解）
- ・平和教育講座
- ・小・中学校教科教育研修講座（教職経験6年次までの教員：教材研究や指導技術の向上）
- ・小・中学校教科等別研修講座（教職経験3年次以上の教員：評価と一体化した指導力の向上）
- ・障害児教育講座（「個別の指導計画」の作成と活用）
- ・幼稚園教育講座（子育て支援の充実と保育）
- ・高等学校教育課題講座（総合的な学習の時間）
- ・人権教育講座
- ・学習指導講座（新しい評価観と学習評価）
- ・生徒指導講座（ソーシャルスキルを育てる生徒指導）など

コンピュータの教育利用について研修して、**実践力アップ**

- ・文書作成
- ・表計算
- ・プレゼンテーション
- ・Webページ作成など

○各研修の期日や内容などについては、研修講座案内（4月配布予定）をご覧ください。

自己のメンタル管理についてや社会教育施設等で研修して、**実践力アップ**

- ・メンタルヘルス講座
- ・異業種体験研修講座
- ・教養講座

○受講希望については、年間分一括して、4月にお申込みください。

教員用語解説

「パフォーマンス評価」って何？

パフォーマンス評価（performance assessment）は、目標としている学習活動の達成目標に達したかどうかを実際にやらせてみて、できるかどうかを評価するものです。

例えば、理科の実験器具の操作ができるかどうかを実際に実験器具を扱う様子を観察して評価するものです。これに対して、いわゆるペーパーテストでは、実験器具の名称や操作手順を問うことができますが、実際に実験器具が扱えるかどうかを把握することはできません。

このように、パフォーマンス評価では、学校で学習した知識や技能が、単にテストの問題を解くためではなく、実生活で応用できるまで深く理解され、身に付いているかを評価することができます。つまり、これからの教育に求められている「生きる力」が身に付いたかどうかを評価しようとするものです。

自然遊びを取り入れてみましょう 生活科(小) - 「大きな葉っぱ」 -

担当：水ノ上

子どもが身近な自然とかかわる活動をする時、ゲーム的な要素を取り入れてみてはいかがでしょうか。

その一例として、J. コーネル氏が考案した「ネイチャーゲーム」という自然遊びの中から「大きな葉っぱ」を紹介します。この活動は、トランプゲームのような楽しさの中で葉っぱの形や大きさなどの特徴に気付き、自然に対する興味・関心を深めることをねらいとしています。

《「大きな葉っぱ」の進め方》

- ① 各自が形や大きさの違う葉っぱを7枚集める。
- ② 円形に座り、リーダーの言う「ある条件」に合った葉っぱを1枚ずつ順番に出していく。
- ③ 条件に合う葉っぱを出せない人は、それまで出された葉っぱを全部もらう。
- ④ リーダーが次の条件を出して、③で葉っぱを出せなかった人からゲームを再開する。
- ⑤ 手持ちの葉っぱが無くなった人が出た時、または時間を決めて終了し、葉っぱの数を確認する。

この他にも自然遊びを紹介した文献を当センターの図書資料室に多数揃えております。ぜひご利用ください。

作ってみましょう 情報教育(小・中) - 授業に役立つリンク集 -

担当：住吉

「総合的な学習の時間」や各教科等で情報を得る手段として、インターネットが活用されつつあります。しかし、ただ単に検索エンジンを用いた情報の検索を行うだけでは、有用な情報にたどりつけず子どもの意欲は減退します。これでは、情報手段を有効に活用しているとは言えません。子どもの発達段階や機器操作能力に合わせた工夫が必要になります。

そこで、子どもにとって有用なWebページのURLをあらかじめ調べておき、リンク集にしてみました。リンク集はブラウザソフトの「お気に入り」に適切なフォルダを作って登録し、登録したURLをフォルダごとフロッピーディスクに書き出すことで、比較的簡単に作成することができます。

たとえば理科のリンク集を作成し、これをフロッピーディスクに保存して、生徒にコピーして配布すれば、授業の時間内に効率よく情報収集を行わせることができますようになります。子どもの機器操作能力や情報収集力が高まれば、子ども自身にリンク集を作らせてみてはいかがでしょうか。

リーディング指導の工夫をしましょう 英語科(中) - 子どもの想像の文脈を掘り起し授業に生かすことをめざして -

担当：藤村

次はAとBの会話です。読んでみましょう。A：“I'm leaving for the United States tomorrow.” B：“Oh, really?” 直訳すれば、A：“私は明日アメリカに発ちます。” B：“本当に。”となります。

もし、Aが健一、Bが陽子であれば子どもたちはどのように訳すでしょうか。「僕は明日アメリカに発つよ」「本当なの」くらいでしょうか。では、この会話が出てくる物語のタイトルが“American Dream”だとするとどうでしょう。健一がアメリカに行く目的が想像できませんか。さらに、笑顔で健一の肩をポンとたたいている陽子のイラストでもあれば、“Good luck!”と健一を励ます陽子の声まで聞こえてきそうで、ここでの健一や陽子の声の調子も想像できます。

このように、英語を「読む」ためには、その英語がどんな場面や誰によってどんな状況で使われているのかをとらえておくことが大切です。そのために、タイトルやイラスト、読む内容に関する予備知識などを活用して、子どもたちが想像力を発揮しながら、読むことの楽しさを味わえるような授業づくりに取り組んでみましょう。

校務分掌組織を見直してみましょう 学校経営 - 子どもに【生きる力】を育む教育活動を推進するために -

担当：永岡

各学校では、子どもに【生きる力】を育むために様々な改善がなされています。

広島市内のA小学校では、児童や保護者にとって“魅力あり、信頼される学校づくり”をめざして分掌組織の再編成に取り組んでいます。具体的には、子どもの学びを育む授業づくりを推進する「創造部」、健康・体力づくりを推進する「健康部」、子どもの縦割り集団による人間関係づくりを推進する「活動部」、そして教育課程の編成や実施のための条件整備を推進する「環境部」の4つの校務分掌です。このうち、「創造部」「健康部」「活動部」は、知・徳・体をバランスよく育ていけるよう「教育活動の充実」をめざすという組織上の役割を果たしています。そして、「環境部」は、この三つの教育活動の質的向上を図るための人・物・こと（カリキュラムなど）による体制づくりを担うことで、「教育環境の充実」をめざすという組織上の役割を果たしています。

このように、【生きる力】の様相を具体化し、各分掌の役割を明確にした分掌組織の再編成が、今後より一層必要となると思われます。

「総合的な学習の時間」の評価について

基本的な考え方と評価の方法

平成12年12月に出された教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」では、「第2章 指導要録の取扱い 3 小・中学校の指導要録」の中で、「総合的な学習の時間」の評価について、次のように述べられています（記述内容の一部抜粋）。

- 学習の状況や成果などについて、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価することが適当であり、数値的な評価をすることは適当ではない。
- この時間の学習活動の展開に当たっては、学習指導要領に示された二つのねらいなどを踏まえ、各学校において具体的な目標、内容を定めて指導を行うことが必要である。そして、その目標、内容に基づき、観点を定めて評価を行うことが必要である。
- 「総合的な学習の時間」の評価については、この時間において行った「学習活動」を記述した上で、指導の目標や内容に基づいて定めた「観点」を記載し、それらの「観点」のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記載するなど、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する「評価」の欄を設けることが適当である。

これは指導要録の取扱いについて述べたものですが、平素の「総合的な学習の時間」の学習状況の評価の際の考え方の基本となるものと考えられます。すなわち、「総合的な学習の時間」における評価は、各教科の学習と同様に、その目標、内容に基づいて観

点を定めて評価することになります。

具体的な評価の観点は、総合的な学習の時間の「ねらい」から、次のようなものが例として考えられます。

評価の観点例

＜総合的な学習の時間のねらいを踏まえた例＞

- ①課題設定の能力
- ②問題解決の能力
- ③学び方、ものの考え方
- ④学習への主体的、創造的な態度
- ⑤自己の生き方

＜各教科等の評価の観点と関連を図った例＞

- ⑥学習活動への関心・意欲・態度
- ⑦総合的な思考・判断
- ⑧学習活動にかかわる技能・表現
- ⑨知識を応用し総合する能力

＜各学校の定める目標、内容に基づいた例＞

- ⑩コミュニケーション能力
- ⑪情報活用能力

具体的に「総合的な学習の時間」の評価を行う場合、学習の結果だけを評価するのではなく、学習の各段階において、各段階の役割にふさわしい観点を位置付けて評価することが必要です。



次の表は、「総合的な学習の時間」の学習における各段階に、評価の観点と評価する方法を位置付けた活動計画例の一部です。

「総合的な学習の時間」活動計画例（小6）【テーマ：他の学校の友だちと交流しよう】

ステップ (時間)	活動内容	教師の支援	学習過程における評価の観点(◇)・方法(●)				
ふ れ る (5)	1 他校の友だちと交流できるWebページを探してみよう。 ・児童用の検索エンジンを使って探す。	・相互交流を目的とした追究活動が可能になるように、単なるクイズやゲームや古いなどの参加型のWebページではなく、参加者が同じテーマで調査研究できるようなWebページを検索するように指示する。	◇参加型のWebページに興味をもち進んで課題を見付けようとしている。(観点例④) ●振り返りカード、活動の様子				
	2 いろいろなWebページを検索し、気づいたことを話し合おう。 ・参加型のWebページに全国各地の学校の友だちが調べたことや意見を寄せ、他の学校と交流していることを知る。 ・広島市の学校として参加し、特徴を出せることはないかを考え、話し合う。		◇自分たちの地域や環境について考え、他の地域の調査結果との違いが出そうなテーマについて考えることができる。(観点例③) ●振り返りカード、話し合いの様子				
つ か む	3 どんなテーマで他校の友だちと交流するか考えよう。 テーマ例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">学校の様子</td> <td>クラブ、委員会、学校行事、給食、ケナフ、ピオトープ など</td> </tr> <tr> <td>地域の自然</td> <td>セミの鳴く時期、タンポポの分布状況、河川の汚れ、酸性雨 など</td> </tr> </table>	学校の様子	クラブ、委員会、学校行事、給食、ケナフ、ピオトープ など	地域の自然	セミの鳴く時期、タンポポの分布状況、河川の汚れ、酸性雨 など	・自分が何をどのように調べたいのかをはっきりさせるために、Webページに寄せられた調査結果やデータ、調査の意義や目的などを確認するように助言する。	◇募集テーマの中で、自分にとって価値のある課題を見付けることができる。(観点例①) ●振り返りカード ◇Webページを再度検索するなど、課題意識をもって取り組むことができる。(観点例④) ●活動の様子 ◇募集テーマについて、見通しをもった計画を立てることができる。(観点例③)
学校の様子	クラブ、委員会、学校行事、給食、ケナフ、ピオトープ など						
地域の自然	セミの鳴く時期、タンポポの分布状況、河川の汚れ、酸性雨 など						

